

# 水族館の展示テーマからみた空間展開

安田研究室 0222686 丸山耕一

1.序 水族館の展示はある種のストーリー性を持って展開し、観覧者は順路に沿った連続した展示空間における展示テーマの展開からそのストーリーを認識する。そこで本研究では水族館の展示空間を観覧空間の床レベルの変化と空間構成について展示テーマ別に分析し、その配列からなる空間展開手法を考察することで水族館の展示手法の一端を明らかにすることを目的とする。注1)

2.展示テーマの配列と床レベルの変化 展示テーマは「川の源流」、「海岸」、「水中」、「海岸+水中」、「動物」、「情報」の6つに分類した(表1、以下の展示テーマに関する考察では「情報」を除くこととする)。展示テーマ別にみると「水中」が最も多くみられ(43/129)、つづいて「動物」(33/129)、「海岸」(23/129)、「川の源流」(15/129)の順に多くみられた。

展示テーマの配列は潜り型、上り型、はさみ型の3つに分類できた(表2)。潜り型は導入部が「川の源流」、「海岸」、「海岸+水中」で、その後「水中」が展示され出口に向かうものである。上り型は導入部が「水中」から始まり、その後「川の源流」、「海岸」、「海岸+水中」が展示され出口に向かうものである。はさみ型は導入部が「川の源流」、「海岸」、「海岸+水中」で、その後「水中」に展開した後、再び「川の源流」、「海岸」、「海岸+水中」に戻り出口に向かうものである。また「動物」は導入部もしくは最後部に多く見られた。

次に展示テーマの配列パターン別床レベルの変化を分析した。潜り型では床レベルが下降しながら展示テーマが展開していくものが多くみられた。上り型は床レベルが上昇しながら展示テーマが展開していくものと最初に下降した後に上昇するものが多くみられた。はさみ型は最初に下降した後に上昇するものとその変化を繰り返すものがみられた。注2)

3.展示空間の空間構成 本章では展示テーマを単位とした展示空間の空間構成を把握するため、幅、天井高の変化値が2倍以下のまとまりのある空間を単位空間と定義していくつかの単位空間のテーマ別集合を展示空間とした上、展示空間のボリュームと空間の連続性に影響を与えられとされる動線上付加要素を分析した。まず単位空間のボリュームとその配列から展示空間を8つに分類した(表3、表4)。次に、単位空間の内部または単位空間の間での順路

方向の連続性に影響を与えられとされる動線上付加要素を抽出した(表5、表6)。最後に、展示空間のボリュームと動線上付加要素からなる展示空間の空間構成を12のタイプに分類した(表7)。A、Bは単位空間内もしくはその間に動線上付加要素が現れないものであり、C~Gは単位空間内に、Hは単位空間の間に動線上付加要素が現れるもので

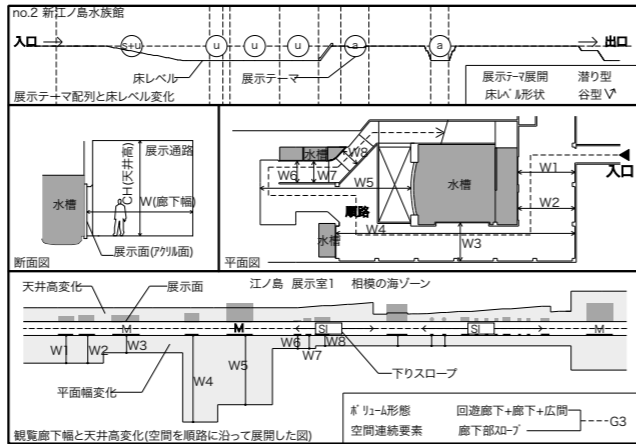


図1 分析例

表1 展示テーマの分類

部門	水族展示部門				学習部門	
種類	川の源流(r)	海岸(s)	海岸+水中(s+u)	水中(u)	動物(a)	情報(i)
例	・東京湾に注ぐ川 ・丹山川の水族	・渚の生物 ・サンゴ礁の海	・出会いの海 ・関門海峡の環境	・世界の海 ・深海への旅	・シロクマ・ペンギン ・シロイルカの水櫃・情報コーナー	・海・生命の進化
図						
比率	12%	18%	5%	34%	26%	5%

表2 展示テーマの配列と床レベル変化

種類	床レベル変化					
	下降 ↓	上昇 ↑	山 〽	谷 V	ギザギザ形	フラット →
潜り型	沖崎 しながわ 下関 鴨川 福島 大阪(6/8)	島根		江ノ島 (1/8)		
上り型		八景島 水遊園 (2/8)	鹿児島 サンシャイン 男勝 (3/8)	葛西 名古屋 (2/8)		エブソン (1/8)
はさみ型	城崎 (1/5)		新潟 大分 (2/5)	大洗 中津 (2/5)		

表3 単位空間のボリューム

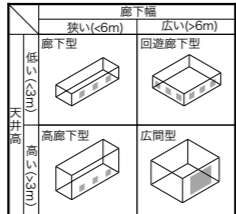


表4 展示空間のボリューム

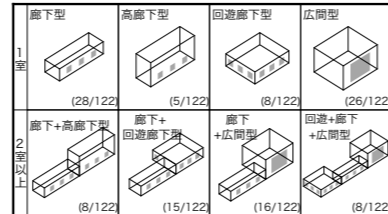


表5 単位空間内の動線上付加要素

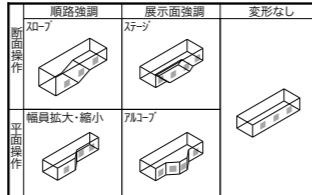
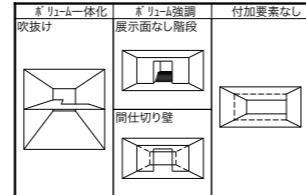


表6 単位空間の間の動線上付加要素



ある。単位空間内での動線上付加要素はステージやアループを設けることで展示面を強調するもの(C、D、E)と、スロープ・段差や幅員の変化により順路を強調するものに分類できる(F、G)。Hは吹き抜けにより複数の単位空間を一体化するものである。これらの分類は展示空間を構成する単位空間の数とボリュームにより細分類される。

展示テーマ別にみると、「川の源流」はG1(5/15)に多くみられた。これは川がもつ3次元空間の要素を廊下部分で順路を強調することにより表現していると考えられる。「海岸」はD(5/15)、F(4/15)に多くみられた。これは水面と水中との関係を廊下にレベル差をつけて体感的に表現したものと、海岸のランドスケープを見せることをアループで平面的な奥行きをつくり見通しをよくすることで水に入るイメージを表現したものだと考える。「海岸+水中」はG3(4/7)に多くみられた。これはスロープを含む廊下で上下のボリュームをつなぐことで海岸から水中の空間に引き込むことを表現していると考えられる。「水中」はA2(5/44)、B1(7/44)、B2(7/44)に多くみられた。これは動線上付加要素のない空間により展示面を大きく見せる演出と考える。「動物」はA3(9/33)、C2(7/33)に多くみられた。これは広間、ステージで単独展示を強調することを表現していると考えられる。

4.展示テーマの配列からみた展示空間の展開類型 本章では順路に沿った床レベルの変化と展示空間の空間構成から展示空間の展開手法を5つの類型より把握する。Aは順路の前半に「海岸」または「川の源流」から「水中」に展開する部分でF、G、Hが現れる類型である。これは外部に対して非日常性の高い水中へ観覧者を効果的に引き込む手法であると考えられ、潜り型とはさみ型に見られた。Iは順路の後半に「水中」から「海岸」または「川の源流」に展開する部分でF、G、Hが現れる類型である。これは非日常性の高い水中からその後続く展示への一体化を図った手法であると考えられ、上り型にみられた。Uは入口からG、H、Iが現れ複数の「水中」を経て「海岸」または「川の源流」に展開する部分で再びF、Gが現れる類型である。これは上記のAとIの両方が含まれた手法であり、上り型とはさみ型にみられた。Iは入口からF、G、Hが現れてその後か廊下型のあとに再び「水中」でF、G、Hが現れる類型である。これは、順路方向に引き込む空間を続けて体験させることで水族館が持つ非日常性を強調する演出手法であると考えられる。潜り型に多くみられた。Iは館を通して展示テーマ内に順路方向への連続性要素がみられない類型である。また全ての館において展示テーマが展開する部分で順路方向への連続性が

付加されていることがわかる。  
5.結 本研究では水族館のストーリー性を展示テーマの配列として捉え、順路による床レベルの変化と展示テーマ別空間構成を分析した上、テーマの配列からみた展示空間の展開手法を類型化した。以上より水族館の展示手法として、展示テーマの展開は展示空間の展開と密接な関係があることが示された。

表7 展示空間の空間構成

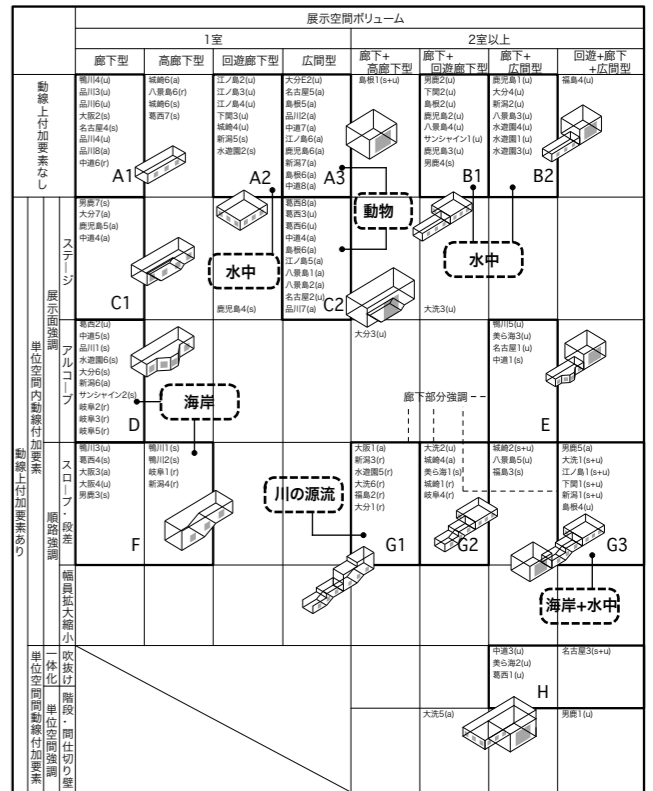


表8 展示空間の展開類型

資料名	展示テーマ展開	空間展開	テーマ配列	床レベル形状	展開類型
no.1 しろのせき水族館	s+u u u i i a a	G3, B1, A2		潜り	▼
no.2 新江ノ島水族館	s+u u u u u a a	G3, A2, A2, C2, A3		潜り	▼
no.3 かつらぎふくしま	i i r r s u e	G1		潜り	▼
no.4 大分市立 以	r i u u u i s a s a s a	G1, A3, D, B2	D, A2	はさみ	▼
no.5 初狩の海の中道	s i i u u a s r a a a	E, H, C, D, A1, A3, A1		はさみ	▲
no.8 八景島シーパラダイス	s a u u s u u r i	C2, C2, B2, B1, G2, A3		上り	▲
no.9 名古屋港水族館	u u u s+u s a	U, C2, H, A2, A3		上り	▲
no.10 西宮臨海水族館	u u u u s a u s a a	H, D, C2, F, C2, A1, C1		上り	▲
no.11 鴨川シーランド	u u s s a i s a a a	G3, B1, A1, B1, G3	C2	上り	▲
no.12 大洗水族館	s+u u u r r s a a a a	G3, B2, G1, F, A2, D, A3		はさみ	▲
no.13 東京臨海臨海水族館	s+u u u i a r r a a	G3, G2	G1, A3	はさみ	▲
no.14 東京臨海臨海水族館	s u u u	G2, H, E		潜り	▼
no.15 鴨川シーランド	s s u u u	F, F, F, A1, E		潜り	▼
no.16 大阪海遊館	a s a a u	G1, A1, F		潜り	▼
no.17 城崎水族館	r i s+u u u a s s	G2, A1, G2, A1		はさみ	▼
no.18 岐阜水族館	r r r r r r	F, D, D, G2, D		-	▼
no.19 しろのせき水族館	s a u u i u a a a	D, A3, A1, B1, D, C2, A1		潜り	▼
no.20 まね海洋館	s+u u i u a a	D, B1, E, A3, A3		潜り	▲
no.21 かつらぎふくしま水族館	s a u u i u a a a	D, A3, A1, B1, D, C2, A1		上り	▲
no.22 江戸川	u s a s	B1, D		上り	▲
no.22 江戸川	u i u a s	A1, A1, E, A1		上り	→

注1) 研究対象は図面が入手可能な国内水族館22館とした。  
注2) 安田幸一・須賀貴康・鈴木彩子：水族館建築における順路から見た展示空間。日本建築学会大会学術発表集。2004. 8